

# The 49th Tokai Hokuriku Branch Meeting of the Japanese Society of Gastrointestinal Cancer Screening

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-02-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Minamoto, Toshinari メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00057138">http://hdl.handle.net/2297/00057138</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 『学会開催報告』

第49回日本消化器がん検診学会  
東海北陸地方会The 49<sup>th</sup> Tokai Hokuriku Branch Meeting  
of the Japanese Society of Gastrointestinal  
Cancer Screening第49回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会 会長  
(金沢大学がん進展制御研究所)

源 利 成

秋が深まり学会シーズンが後半をむかえた2019年11月30日(土)に、第49回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会を石川県文教会館で開催しました。地方会とはいえ、東海北陸地域の消化器がん検診学の実践と研究のコアとなる学術集会です。この時季にしては好天にめぐまれ、東海北陸7県からおよそ80名の消化器専攻医・研究者と160余名のコメディカルの方々が参集しました。コメディカル会員の多くは消化器がん検診に従事する放射線技師や超音波技師であることから、第28回東海北陸支部放射線研修委員会と第16回東海北陸支部超音波研修委員会を併催しました。これらコメディカル会員と連携しながら、支部役員や会員の皆さんに支えていただいて、何とか責務を果たすことができました。

一般社団法人日本消化器がん検診学会は、本邦の消化器がん健診に関する学術、研究の推進と、効果的な検診の実践、普及をはかり、ひいては国民の健康増進を通じて社会に貢献することを目指しています。このように、学術、研究の推進と検診の実践、普及を図ることは本会の目指すところの両輪をなすものの、昨今は前者の比重が高まっていないように実感します。そこで本地方会の主題は「消化器がん検診の科学と実践」としました。先人の弛まぬ努力により、現在のような胃がんと大腸がんの検診が体系化され、早期発見とがん死の減少に貢献しています。ところが、消化器系のなかでも膵がんは極めて難治性であるにもかかわらず、その検診方策はおろか早期診断体系でさえ暗中模索の状態が続いています。

このような状況に鑑み、本地方会では膵がんや肝がんを中心に、がん検診への導入を見据えた遺伝子・分子レベルのバイオマーカー開発に関する講演を企画しました。この領域で精力的に研究されている本田一文先生(国立がん研究センター研究所 早期診断バイオマーカー開発部門)に「血液バイオマーカーを利用した効率的な膵がん検診法の臨床開発：膵がんリスク疾患層別化による2次予防を目指して」の課題で、血漿プロテオミクス解析から同定したマーカー分子の検査を膵がん検診に導入する試みを紹介していただきました。これを受けて、膵疾患診療の第一線に従事している花田敬士先生(JA広島厚生連 尾道総合病院 消化器内科)が「膵がん早期発見への取り組み:地域医療連携システムの構築」について、「尾



道プロジェクト」の現状、成果と他の自治体への普及についてご講演されました。また、本田先生とはアプローチが異なるものの、酒井佳夫先生(本学消化器内科学)は「消化器がんの血液細胞にみられる生体反応と痛スクリーニング法開発研究」と題して、末梢血白血球の遺伝子発現プロファイル解析による肝がんを中心とする消化器がんスクリーニングの試みについてお話されました。これらの主題を基調講演として位置づけ、「東海北陸地域の特色ある検診システム」に関するシンポジウムで、地域特有のバスによる内視鏡検診と地域に密着した対策型胃がん検診の最前線について活発な討論がなされました。また、地方会自体の主目的である一般演題は12名の支部会員が、上部・下部消化管や胆膵など広範な課題について、朝早くから研究発表しました。

これらのプログラムの合い間に企画した共催セミナー(共催:栄研化学株式会社)では、石田秀行先生(埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科)が「遺伝性/家族性大腸がんの診療と検診への取り組み」について最新の知見と検診への見通しについてご講演されました。がん検診とゲノム医療、遺伝性腫瘍をリンクさせた新しい視点であり、参加者一同が有益な昼食時間を過ごしま



した。このように昨年の岐阜市から引き継がれた本地方会は、次回の記念すべき第50回地方会(浜松市)へと続くような、支部会員にとって秋らしい実り多い学術集会になったと確信しています。

稿を終えるにあたり、金沢大学十全医学会の後援とご支援に感謝します。